特 集　越谷市シルバー人材センターのあゆみ　～事務所の変遷から歴史を振り返る～

Part１：センター設立から今日まで

日本社会の急速な少子高齢化が予測されていたころ、定年退職後の臨時的・短期的な就業を通しての緩やかな社会からの引退、生きがい対策、健康福祉等の問題解決の一助として、昭和５０年、シルバー人材センターの前身である「高齢者事業団」の第１号が東京都江戸川区に誕生しました。その後、全国的に地方自治体の独自事業として広まり、国はこの事業を「自主、自立・共働、共助」を理念とする「高年齢者能力活用事業（シルバー人材センター事業）」として補助事業としました。

越谷市においても、昭和５５年４月に「越谷市高齢者事業団準備事務局」が旧市立福祉会館（現：越谷市中央市民会館場所）に開設され、事務局職員２名を採用して設立に向けての事業所向けアンケート調査の実施、入会説明会等を経て、同年１０月３日に「越谷市高齢者事業団設立総会」を開催して県内６番目の事業団として産声を上げました。

設立年度末の会員数は３８７人、受注件数は１５１件、契約金額は９，７９７，６８８円からのスタートとなりました。その後、昭和５７年６月に「社団法人越谷市シルバー人材センター」として法人化、さらに平成２４年度から県の公益法人認定を受けて「公益社団法人越谷市シルバー人材センター」へと移行して現在に至っています。この間、数回の事務所移転を行いながら、様々な事業の拡大と実績増に併せて事務局職員も増員してまいりました。

この４月からは、市当局の計らいで、「産業雇用支援施設」の３階部分のほぼ全域（従来の３倍の面積）を事務所、会議室、作業室、倉庫等として使用できるようになりました。これまでは理事会や研修会等を開催するときには、事前に会場の予約状況を確認して借用申請をしなければなりませんでしたが、これからは自由にセンター事務所の一部として使用できるようになり大変感謝しております。また、サロン的なスペースもありますので、会員の皆様の親睦交流の場としてもご利用いただけるものと思います。

この建物の１、２階には「ハローワーク越谷」も同居していますので、今後もシルバー人材センター事業と求職・求人等におけるワンストップサービスの拠点として展開していくことが期待されています。

Part２：センター事務所の変遷

① 旧：市立福祉会館（昭和５５年４月～平成元年７月）

会館１階の旧レストラン跡に事務所を開設、当初の室内は事務局と襖・障子張り替えの作業場が更衣ロッカーを衝立にした状態で同居していました。その後、同館内にあった大広間を使用できるようになり、襖・障子作業に加えて内職作業を受注して２０人程の男女会員がワイワイ楽しみながら就業していました。

② 旧:越ヶ谷公民館別館（平成元年７月～平成３年３月）

福祉会館の老朽化による中央市民会館への建て替え期間中には、旧：越ヶ谷公民館の別館（越ヶ谷１丁目）に移転しました。ここの建物は昔の木造校舎を移築したもので、かなり古い建物でしたが、事務所と作業所（襖・障子）と車庫を提供していただけました。

③ 中央市民会館（平成３年４月～平成５年３月）

市立福祉会館とそれに隣接していた乳児保育所と郵便局の跡地に「越谷市中央市民会館」が完成し、同館２階の一画にセンター事務所も移転しました。職員は市の中心部で最新の大型施設の中での勤務でしたが、作業所は旧事務所のままで取り壊しが予定されていたので、新しい作業所を市に要望したところ、新たに建設される第２老人福祉センターの中に事務所と一緒に造っていただける運びとなりました。

④ 老人福祉センターくすのき荘（平成５年４月～平成１７年３月）

大杉地域に完成した市立老人福祉センター「くすのき荘」に事務所と作業所を移転しました。続けて新設施設での業務となりましたが、場所が市北部で最寄り駅からも遠かったことから会員や市民への利便性を考えて、事務所部分の市中央部への移転を要望していきましたところ、旧：東京電力ビルを改装した「産業雇用支援センター」に移転できることになりました。

⑤ 産業雇用支援センター（平成１７年４月～現在）

市役所に近い市中央部の「産業雇用支援センター」３階が現在の事務局です。襖・障子張りの作業所はくすのき荘内のままで、旧事務所部分はカルチャー教室（書道、パソコン）事業や内職作業等で使用させていただいております。以前は３階の一画をお借りしておりましたが、市事務室移転に伴い、今年度から３階全体を事務所として活用しております。